

月刊

利根日石新聞



2009年11月1日

創刊
平成27年3月号

第000065号

発行
利根日石株式会社
本社販売管理部
TEL: 0278-24-1635
FAX: 0278-23-7980



昼間は『春が来た〜』とを感じる風が吹きますが、利根沼田の朝・晩は、まだまだ寒いんですね

今日は桃の節句と卒業式です。

私の息子も、中学と小学生の2人が卒業です。やっとこの日を迎えますが、まだまだ



母は頑張らねば！
入学準備、
またもお金かかります。
辛い男の子だから
制服には大金
かからないで済むが...

私の育った地元は、保育園から中学まで、ずっと一緒にいたので、卒業の時はとってもさみしかったことを覚えています。でも地元に残った友人とは、ランチしたり、お買い物や、お酒を飲みに行ったりと楽しんでます。息子にも大人になっても永く付き合える友ができればと思います。



今年1月姪が女の子を出産しました。当然のピンクの花柄の洋服にくるまれて、置いてある小物もかわいらしい色ばかりです。主人の兄弟も私の兄弟も子供は、女の子、男の子とみんないるので、ひな祭りも、五月の節句も盛大ですが私は男の子。孫の園雅(3才)来日産まれる2人目の孫もおひなさまには、縁がないようです。元気が一番いいおひなさまに、みんなに言われているのです。先日私の誕生日の次の日母から電話があって、昨日誕生日だったよね、いくつになた？と聞かれ〇〇歳と答えるとそうと確認してました。毎年電話をくれるので、ちょっと心配でも忘れていない事なので、遠くで暮らしている私が元気なら、親孝行かなと思います。会える日を楽しみに日々過ごしています。

先日自分の為にちらし寿司を作りました。おんぴょう、ゴぼう、にんじん、舞茸、ひじき食べた後おいしい筈が、気が付き、残念!! 誰も食べないの? さびしい〜よ私だけしか食べないの?

どうなる!? 電力システム改革!!

先ずはお詫び致します。前回の紙面にて「どうなる!? 原油価格!」と題して原油価格下落の経緯と今後の見通しについてお伝えしました。そうしたら2月に入った途端、これまで下落の一途だった原油価格が一転、上昇を始め、ガソリンや灯油などの価格も5円前後値上げせざるを得ない状況となってしまいました。これ以上この話題にふれると、せっかく安くなって購入し易くなった石油製品が、また値上がりにしかねないので、もうこれ以上ふれないことにします。m(_)m

そこで! という訳ではないですが、今回は「どうなる!? 電力システム改革」と題してお伝えしたいと思います。一昨年からこの「電力システム改革」という言葉が新聞やニュース等で見聞きするようになりました。これはひとことでは「電気を供給する体制もガラリと変える」ことです。電気はご承知の通り、生活に欠かせないものであり、台風や事故で電気が止まると日常生活が送れない程の影響を私たちに与えてくれます。この様に国民の生活に欠かせない、公益性の高いサービスであるが故にその担い手である電力会社を国は長い間、守ってきました。

特に、1990年代後半までは石油上がりの経済状況、増え続ける人口などを背景に電気の需要は伸び続けてきました。伸び続ける需要に対応するために、発電所や変電所、送電網などの大規模で高額な設備を整えてゆく必要があったため、電力会社には安定した経営を確保できる環境が必要でした。その為、例えば地域独占であったり、総括原価方式であったり、3つうちの会社では馴染みのない経営手法に国はお墨付きを与えて保護してきました。

ところが、2000年以降、電気の需要はほぼ頭打ちで新たに大規模な設備を整備する必要はなくなってきて、今までのように国が手厚く保護する必要もなくなってきます。そこで地域独占ではなく、より多くの企業が参入できるようにして、各企業が競争する中で電気代が下がるように国は電力市場を自由化することになりました。これが「電力システム改革」です。ただし、今までの「電気を供給する体制もガラリと変える」ので、どうも簡単には進みません。そこで国は「ガラリ」をろくに区切って進めることにしました。

まず、全国の電力供給をコントロールする「広域機関」を作って、各地域(関東や東北など)をまたぐ広域的な運用体制を作ります。これが第1段階。これは今年、行われます。

次に、一般家庭向けを含む全ての電力販売が自由化されます。今まで工場や病院など法人の大規模施設などへの電力供給は自由化していましたが、一般家庭は東京電力など既存の大手電力会社に限定していました。これを、多種多様な会社に参入を促します。これが第2段階で来年スタートします。

そして、第3段階として、既存の電力会社の送配電部門の法的分離、いわゆる「送配電分離」です。電気を作る部門と、電気を運ぶ部門を切り離して別の会社になります。こうすることで全国津々浦々に広がる高圧線や変電所、電柱、電線などの送電設備を新規参入の様々な会社が自由に使うことが出来ます。これはちょうど1985年に日本電信電話公社が民営化してNTTに生まれ変わった時に似ています。つまり、電話事業を独占していた電電公社を分割して電話回線網を後発のソフトバンクやKDDIなどが使えるようにしたのと同じ構図です。

この電力システム改革で、私たちの生活はどう変わるでしょう?

まず、「電気料金が競争の原理で安くなる」という話。これは、そもそもこの改革の目的ですし、国もそう願っています。実際は必ずしもそうではありません。例えばイギリスでは同様の電力システム改革以降、大抵に電気料金が値上がりしているそうです。

ガス会社や通信会社など多様な企業が参入するので、例えば電気とガスのセット割引や、電気と携帯電話・インターネットのセットメニューなど、便利でお得な選択肢が出てくるという話もよく聞きます。これは恐らくその通りになるでしょう。

また、スマートメーター(デジタル式の電気メーター)が普及することによって電気と通信がより密接に関わるようになります。例えば「帰宅途中にスマホから部屋のエアコンのスイッチを入られるようになったり、外出先から我が家の電気の使用状況が見えるようになったり、この機能を利用してお年寄りの見守りサービスが生まれたり等々。

新しい「電気のあり方」、実は、今この辺りまで来ているそうです。